

巻頭言

第80巻を迎えて



岡部道生*

「電気製鋼」(以下、本誌)は、前号でお知らせしましたように電気製鋼研究会の解散に伴い、本年から当社の技術論文誌として年3回の情報発信を行って参ります。1925年の創刊以来、第2次世界大戦時期の中断はありましたが、大正、昭和、平成と歴史を積み重ねてきた電気製鋼研究会と諸先輩の皆様から心から敬意を表します。80余年の永きに渡り特殊鋼技術の普及を目的に刊行して参りました本誌の伝統を継承し、激動する社会に対応する鉄鋼・特殊鋼に関わる技術を、これからも発信していきたいと思えます。

本号は80巻記念として、当社社長小澤正俊の随想に始まり、総括として近年の自動車技術のトレンドについて早稲田大学大聖泰弘教授から一文をいただき、さらに特殊鋼における環境技術、デジタルエンジニアリングを紹介いたします。また、解説では当社の材料開発および生産技術に関する最近の動向・成果と今後の方向性について、幅広い分野から11件の記事を紹介いたします。

昨年10月の激変以来、世界同時不況の中での記念号となりましたが、混乱が収拾され経済が回復したときには、これまでもまして、環境・エネルギー・資源をキーワードに技術開発が進むものと考えます。環境技術、省エネルギー省資源の技術分野は、日本の技術が生きる分野であり、この技術に磨きをかけることが日本が今後生き残る道と考えております。特殊鋼が重要な役割を果たす自動車の分野においても、ハイブリッド車、電気自動車など環境対応車の本格導入の時代になると予想され、パワーエレクトロニクス用の磁石、軟磁性材料、センサーなどの開発が盛んになると考えられます。また、太陽光発電などの自然エネルギーの開発、普及のための技術開発が進むものと思われます。このような、時代の変化を敏感に捉え、今後も情報発信、技術発信を続けていきたいと考えています。この第80巻記念号がこれまでの変化の総括として、今後の技術開発の指針の一助となれば幸いです。厳しい環境ではありますが、次の90巻に向けて進んでいきたいと思えます。

*大同特殊鋼(株)取締役研究開発本部副本部長，工博